

ELECOM

モバイルワイヤレスマウス

M-D10URシリーズ

ユーザーズマニュアル

この度は、エレコムのモバイルワイヤレスマウス"M-D10UR"シリーズをお買いあげいただき誠にありがとうございます。"M-D10UR"シリーズはワイヤレスで操作できるホイール付きオプティカルマウスです。手のひらサイズのコンパクト設計で、マウスを使用しないときはレシーバユニットをマウス本体に収納することができます。このマニュアルでは"M-D10UR"シリーズの操作手法と、"M-D10UR"シリーズを安全にお取り扱いいただくための注意事項を記載しています。ご使用前に、必ずこのマニュアルをお読みください。なお、このマニュアルでは一部の表記を除いて"M-D10UR"シリーズを「本製品」と表記しています。また、このマニュアルは大切に保管しておいてください。

■本製品は以下の条件で使用できます。

対応機種	IBM PC/AT互換機およびNEC PC98-NXシリーズでUSBポートを標準で装備した機種 USBインターフェイスを装備したMac OS8.6～9.x、Mac OS X(10.2以降)に対応する機種
対応OS	Windows® XP/Me/2000/98 Macintosh OS 8.6～9.x/OS X(10.2以降)

※本製品は「特定電波機器」ですので総務大臣の無線局許可は必要ありません。電波法に準拠しています。

マウス	 R005NYCA0275
レシーバユニット	 R005NYCA0276

■本製品は2.4GHz帯全域を使用する無線設備であり、移動体識別装置の帯域が「回避可能」です。変調方式にはDS-SS方式を採用し、与干渉距離は10mです。

- 本製品を使用する前に、近くで「他の無線局※」が運用されていないか確認してください。
- 万一、本製品と「他の無線局※」との間に電波干渉が発生した場合は、すみやかに本製品のIDを変更するか、使用場所を変更するか、本製品の使用を停止してください。

※「他の無線局」とは、本製品と同じ2.4GHz帯を使用する産業・科学・医療機器、他の同種無線局、免許を要する移動体識別用機内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局です。

パッケージ内容の確認

本製品のパッケージには次のものが入っています。作業を始める前に、すべてが揃っているかを確認してください。なお、梱包には万全を期しておりますが、万一不足品、破損品などがありましたら、すぐにお買い上げの販売店または弊社エレクトロニクス総合インフォメーションセンターまでご連絡ください。

- マウス本体、1個
- レシーバユニット、1個
- 単3形アルカリ乾電池（動作確認用）、2本
- ユーザーズマニュアル（このマニュアルです）、1枚
- 専用ポーチ、1個

安全にお使いいただくために

けがや故障、火災などを防ぐために、ここで説明している注意事項を必ずお読みください。

	警告	この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などによる死亡や大けがなど人身事故の原因になります。
	注意	この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり、他の機器に損害を与えたりすることがあります。

■絵表示の意味

- 記号は「してはいけない」ことを示します。
- 記号は「しなければならない」ことを示します。

警告

- 航空機内や病院など無線機器の使用が禁止されている場所では、本製品を使用しないでください。本製品は電波を使用しているため、電子機器や医療機器などに影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。
- 心臓ペースメーカを装着されている方は、本製品をペースメーカの装着部から20cm以上はなして使用してください。本製品は電波を使用しているため、ペースメーカに影響を与える恐れがあります。
- 本製品は、人命に直接かわる医療機器および高い信頼性が要求される幹線通信機器や電算機システムなどには使用しないでください。本製品は家庭用OA機器として設計されています。
- 本製品が発熱している、煙がでている、へんな臭いがしているなどの異常があるときは直ちに使用を中止したうえで、レシーバユニットをパソコンからはずし、マウスから乾電池を取り出してください。そのあと、ご購入店などにご連絡ください。そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。
- 本製品を落としたり、ぶつけたりしないでください。万一、本製品が破損した場合は、直ちに使用を中止したうえで、レシーバユニットをパソコンからはずし、マウスから乾電池を取り出してください。そのあと、ご購入店などにご連絡ください。そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。
- 本製品の分解、改造、修理を自分で行わないでください。火災や感電、故障の原因になります。また、故障時の保証の対象外となります。
- 本製品に水や金属片などの異物が入った場合は、直ちに使用を中止したうえで、レシーバユニットをパソコンからはずし、マウスから乾電池を取り出してください。そのあと、ご購入店などにご連絡ください。そのまま使用すると、火災や感電、故障の原因になります。
- レシーバユニットをぬれた手で抜き差ししないでください。また、加工したり、無理に曲げたりしないでください。火災や感電の原因になります。
- マウスの底面にあるオプティカルセンサ（赤い光）を直接見ないようしてください。目を痛めることがあります。また、このセンサを汚したり、傷をつけたりしないでください。

注意

- レシーバユニットをパソコンに接続するときは、コネクタの向きを間違えないように接続してください。無理に押し込むと、レシーバユニットやパソコンが故障したり、けがをする恐れがあります。
- 本製品は防水構造ではありませんので、水などの液体がつかからないところで使用または保存してください。雨、水しぶき、ジュース、コーヒー、蒸気、汗なども故障の原因となります。
- 本製品には単3形アルカリ乾電池または単3形マンガン乾電池、単3形オキシライド乾電池、単3形ニッケル水素電池をお使いください。電池は新しいものと古いものを混ぜて使用したり、分解したりしないでください。プラスとマイナスの向きを正しく入れてください。また、本製品を長期間使用しないときは、電池を取り出しておいてください。液漏れや故障の原因になります。
- 本製品に使用する乾電池は、一般の不燃ゴミとして処分できるものです。自治体の条例などの定めがある場合は、その条例に従って廃棄してください。

本製品の設置に関する注意事項

- 本製品は次のようなところでは使用しないでください。
 - ・日のあたる自動車内、直射日光のあたるところ、暖房器具の周辺など高温になるところ
 - ・多湿なところ、結露をおこすところ
 - ・平坦でないところ、振動が発生するところ
 - ・マグネットの近くなどの磁場が発生するところ
 - ・静電気や電波障害が発生するところ
 - ・ほこりの多いところ
 - ・薬品に触れるところ、酸化した薬品が充満したところ
 - ・高周波雑音を生ずる高周波ミシンや電気溶接機などの近く

- 本製品は電気製品、AV機器、OA機器などの磁気を帯びている機器、電波を放射する機器、電磁波を発生する機器などの近くでは使用しないでください。特に携帯電話、コードレス電話、電子レンジ、テレビ、ラジオ、スピーカ、電気たばこ、インバータエアコン、電磁調理器、蛍光灯などに注意してください。

- ・電波の影響を受けると、本製品の動作が不安定になったり、動作しなくなることがあります。
 - ・テレビ、ラジオの近くで使用すると、受信障害やテレビ画面の乱れが発生することがあります。
 - ・携帯電話、コードレス電話の近くで使用すると、通話状態や発着信の動作に影響を与えることがあります。
- 本製品と他の機器の電波が相互に影響し、正しく動作しない場合は、電波が影響しなくなる場所まで離して使用してください。

- マウス本体とレシーバユニットとの間の電波の到達距離は見通して約30mです。到達距離は周囲の電波の状況や壁の構造（断熱壁、防音壁、鉄筋壁）などにより短くなります。

本製品を使用する際の注意事項

本製品は無線周波数帯域として2.4GHz 帯を使用しています。2.4GHz帯は医療機器やBluetooth、IEEE802.11b/11g規格の無線LAN機器などでも使用されています。以下の内容をお読みになり、周囲の環境には十分にご注意ください。

- 本製品はIEEE802.11b規格に準拠しています。まれに同規格の無線機器との混信により動作が低下したり、動作しなくなったりすることがあります。
- 本製品の電波が、同じ周波数帯域を使用する他の機器に影響を与えることがあります。

- 本製品が使用する2.4GHz帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の生産ラインなどで使用される免許を要する移動体識別用機内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局（以下「他の無線局」）が運用されています。
- 本製品を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないか確認してください。
- 万一、本製品と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合は、すみやかに本製品のIDを変更するか、使用場所を変更するか、本製品の使用を停止してください。
- 本製品は電池の消耗を防ぐためスリープモードがあります。約1秒操作がありませんとスリープモードに移行します。スリープモード状態の時に右クリックすると通常モードに戻ります。
- 残量が少なくなった電池は、新しいものと交換してください。電池の残量が少なくなると動作が不安定になります。

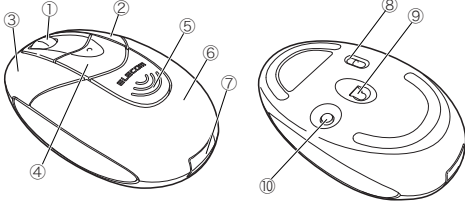
お手入れのしかた

本製品が汚れたときは、乾いたやわらかい布でふいてください。

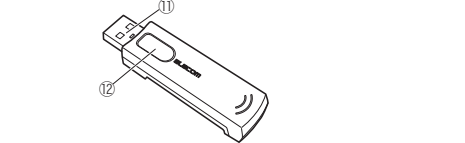
- ・シンナー、ベンジン、アルコールなど揮発性の液体を使用すると変質や変色をおこすことがあります。

各部の名称とはたらき

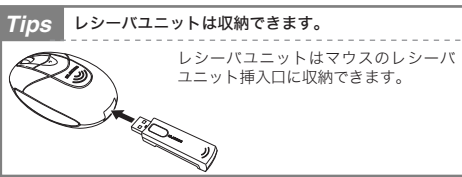
■マウス本体



■レシーバユニット



① ホイール	指で前後に回転させたり、ボタンのように押すことで、パソコンの操作ができます。
② 右ボタン	パソコンの操作の右クリックに使います。
③ 左ボタン	パソコンの操作の左クリックに使います。
④ アクションボタン（電池カバー）	このボタンを押すと、電池カバーが開きます。
⑤ アクションボタン（レシーバユニット）	このボタンを押すと、レシーバユニット収納口からレシーバユニットが出てきます。
⑥ 電池カバー	このカバーを開けて、電池を入れます。
⑦ レシーバユニット（電池カバー）	本製品を使用しないときは、ここにレシーバユニットを収納します。下記の「 Tips 」および 2 ページ「マウスを使う」をご覧ください。
⑧ 主電源スイッチ	マウス本体の主電源を入(ON)／切(OFF)することができます。
⑨ オプティカルセンサ	マウス本体に乾電池が入ると赤く光ります。マウス本体を動かしたときに、このセンサによってマウスの動きが検知されます。センサの光を直接見る目を痛めることがありますので注意してください。
⑩ ID設定ボタン	本製品のIDを変更するときに使います。
⑪ USBコネクタ（オス）	パソコンのUSBポートに接続します。
⑫ ID設定ボタン	本製品のIDを変更するときに使います。



レシーバユニットの取り付け/取り外し

はじめてお使いになるときは、はじめにレシーバユニットをパソコンに取り付けます。以下の手順どおりパソコンの電源を入れてからレシーバユニットを取り付けてください。Windows®XP/MeおよびWindows® 2000の一部の環境では、レシーバユニットを取り付け後に自動的にドライバがインストールされた場合はウィザード画面は表示されませんが、この手順は不要です。

■取り付ける場合

- 注意** 取り付けの前に以下の点にご確認ください
- ・Windows® 98/2000 をご使用の場合、今までお使いのマウスは接続したままにしておきます。あとのセットアップでマウスの操作が必要な場合があります。
 - ・既存のマウスがメーカーオリジナルのドライバや設定ユーティリティなどを使用している場合は、あらかじめアンインストールしておいてください。他社製ドライバなどがないとインストールされていると本製品が正常に動作しないことがあります。アンインストールの方法については、今までお使いのマウスの説明書をお読みください。

① レシーバユニットを取り付ける前にパソコンの電源を入れ、Windows®またはMacintoshを起動します。

- ・Windows® XPの場合は、起動時にログオンするアカウント（ユーザー名）を尋ねられる場合は、必ず「コンピュータの管理者」権限があるアカウントでログオンしてください。
- ・Windows® 2000の場合は、Administratorの権限をもつユーザーでログオンしてください。
- ・Windows®が起動し、操作可能な状態になるのを確認してください。

② レシーバユニットのUSBコネクタをパソコンのUSBポートに差し込みます。

- ・差し込みの際、強い抵抗を感じる場合は、コネクタの形状と向きが正しいか確認してください。無理に押し込むとコネクタが破損したり、けがをする恐れがあります。
- ・USBハブ経由でもお使いいただけます。ただし、USBハブの電源供給能力によっては本製品が動作しない場合があります。

③ この後はOSにより動作が異なります。

- Windows® XP/Me の場合
自動的にドライバがインストールされます。これでレシーバユニットの取り付けとドライバのインストールは完了です。
→**2**ページ「乾電池を入れる/交換する」へ進みます。
- Windows® 2000 の場合
・ドライバが自動的にインストールされた場合は、これでレシーバユニットの取り付けとドライバのインストールは完了です。
→**2**ページ「マウスを使う」へ進みます。
・ウィザード画面が表示された場合は、手動でドライバをインストールします。
→このページの「レシーバユニットをセットアップする(Windows® の場合)」へ進みます。
- Windows® 98 の場合
ウィザード画面が表示されます。
→このページの「レシーバユニットをセットアップする(Windows® の場合)」へ進みます。
- Macintoshの場合
エレコム オリジナルドライバをインストールします。
→このページの「レシーバユニットをセットアップする(Macintosh の場合)」へ進みます。

■取り外す場合

レシーバユニットはホットプラグに対応していますので、Windows®が起動した状態で取り外すことができます。また、Macintoshの場合も電源をONにした状態でレシーバユニットを取り外すことができます。
※Windows®の起動中に何度も着脱をくり返すと、動作が不安定になることがあります。このような場合はWindows®を再起動してください。

レシーバユニットをセットアップする（Windows® の場合）

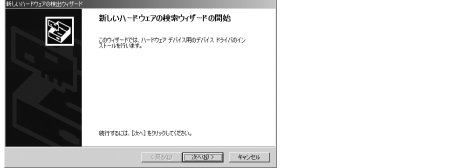
Windows® 2000の一部の環境とWindows® 98では、レシーバユニットの取り付け後にウィザード画面が表示されます。ウィザード画面が表示された場合は、この後の各OSの説明をお読みになりドライバをインストールしてください。

Tips マウスやタッチパッドのないパソコンの場合

Windows® 98/2000ではセットアップ時にマウスの操作が必要ことがあります。マウスまたはタッチパッドがないパソコンをお使いの場合は**2**ページ「トラブルシューティング」の「**Tips**：キーボードでの操作」をご覧ください。キーボードから操作してください。

Windows® 2000の場合

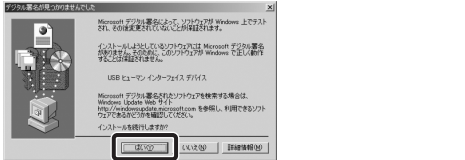
Windows® 2000では、ご使用の環境によってレシーバユニットの取り付け後に次のようなウィザード画面が表示されることがあります。ウィザード画面が表示された場合は、メッセージにしたがってドライバをインストールしてください。レシーバユニットの取り付け後に自動的にドライバがインストールされた場合はウィザード画面は表示されませんが、この手順は不要です。



- 途中、〈ドライバ ファイルの特定〉画面が表示された場合は「検索場所のオプション」のチェックをすべてオフにして、次へ進んでください。



- 途中、「デジタル署名が見つかりませんでした」という画面が表示されます。「USBヒューマン インターフェイス デバイス」および「HID キーボードデバイス」のいずれのドライバも正常に動作することを当社で確認しておりますので、**はい** ボタンをクリックして次へ進んでください。



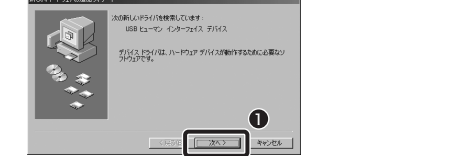
- インストールが終われば**2**ページ「マウスを使う」へ進みます。

Windows®98の場合

Windows® 98では、レシーバユニットの取り付け後にウィザード画面が表示されますので、手動でドライバをインストールしてください。セットアップ中に「Windows® 98 オペレーティングシステム」のCD-ROM が必要になる場合がありますので、あらかじめご用意ください。

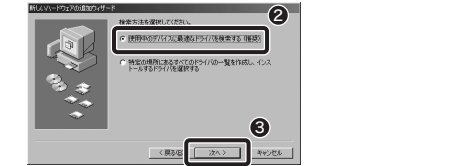
- Windows® 98プリインストールモデルのコンピュータをご使用の場合
パソコンご購入時に添付されている「Windows® 98 CD-ROM」または「Windows® 98 Second Edition CD-ROM」をご用意ください。このような表記のCD-ROMがない場合は、手順**③**の**Tips**で「ファイルのコピー元」にCD-ROMドライブを指定する代わりに「C:\Windows\Options¥Cabs」フォルダを指定してください。※このフォルダを指定してもインストールが進まない場合は、Windows® 98標準ドライバファイルの保存先についてお使いのパソコンメーカーにお問い合わせください。※Windows® 98プリインストールモデルの場合は、ドライバが自動的にインストールされることもあります。
- Windows® 98のパッケージをご購入されている場合
パッケージに入っている「Windows® 98」のCD-ROMをご用意ください。

① レシーバユニットの取り付け後、(新しいハードウェアの追加ウィザード) 画面が表示されます。次へ ボタンをクリックします。



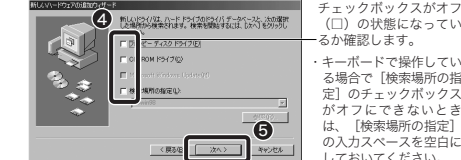
② 「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する」を選択します。

③ 次へ ボタンをクリックします。



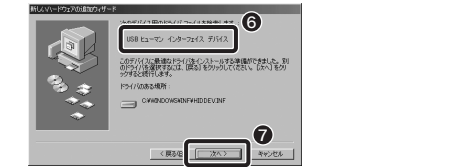
④ すべてのチェックボックスをオフにします。

⑤ 次へ ボタンをクリックします。



⑥ 検索するドライバファイルとして「USBヒューマン インターフェイス デバイス」が表示されていることを確認します。

⑦ 次へ ボタンをクリックします。



⑧ Windows® 98 CD-ROMをドライブに入れるようにメッセージが表示された場合は、用意しておいたCD-ROMをドライブに入れます。OK ボタンをクリックします。



- ・プリインストールモデルをご使用の場合は、このあとの「**Tips**」を参照してフォルダを指定してください。

Tips OKボタンをクリックしたあと、(ファイルのコピー)画面が表示された場合

以下のいずれかの方法で「ファイルのコピー元」を指定します。
※プリインストールモデルでWindowsRのCD-ROM が添付されていなかった場合は、CD-ROMドライブのドライブ名の代わりに「c:\windows\options¥cabs」フォルダを指定してください。
※コピー先のほうか、CD-ROM のファイルより日付が新しい場合は、そのまま新しい日付のファイルを使用してください。

●ドライブ/フォルダ名を入力する方法

- ①キーボードからCD-ROMドライブのドライブ名と「¥win98」を入力します。

例：CD-ROMをDドライブに入れた場合
D:\¥WIN98 （小文字でも可）

※ドライブ名に続いて「:」と「¥」を入力し、さらに「WIN98」を入力します。

②OKボタンをクリックします。

●参照 ボタンをクリックする方法

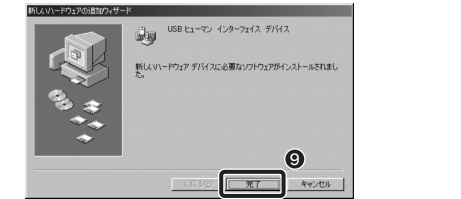
- ①〈ファイルのコピー〉画面で**参照** ボタンをクリックします。



③OKボタンをクリックします。

- ④〈ファイルのコピー〉画面の**OK**ボタンをクリックします。

⑨ドライバのインストールが完了したら、完了 ボタンをクリックします。



- ・Windows® 98 CD-ROMの画面が表示された場合は、画面右上の **X** をクリックして画面を閉じてください。
- ・Windows® 98 CD-ROMを取り出してください。

注意 **完了** ボタンをクリックしたあと、Windows® 98 CD-ROM を要求されたときはご使用の環境によっては**完了** ボタンをクリックしたあと、ドライバの更新中にWindows® 98 のCD-ROMを要求されることがあります。このような場合は、手順**⑧**と手順**⑨**の**Tips**を参照してインストール作業を続けてください。

⑩これでレシーバユニットのセットアップは完了です。2ページ「乾電池を入れる/交換する」へ進みます。

レシーバユニットをセットアップする（Macintoshの場合）

本製品を接続する前に、エレコム オリジナルドライバをインストールします。Mac OS X以降Mac OS 8.6～ 9.xではドライバが違いますので、インストール手順も異なります。

Tips ドライバとは
ドライバとは、パソコンに接続した機器をMacintoshが認識し、動作させるために必要なソフトウェアのことです。Macintosh上でホイール機能および右ボタンを使用するために必要になります。

注意 既存のマウスがメーカーオリジナルのドライバや設定ユーティリティなどを使用している場合は、あらかじめアンインストールしておいてください。他社製ドライバなどがインストールされていると本製品が正常に動作しないことがあります。アンインストール方法については既存のマウスの説明書をお読みください。

Mac OS X の場合

エレコム オリジナルドライバはMac OS X (10.2 以降) に対応しています。また、インストールにはログインするアカウントの名前（ユーザー名）とパスワードが必要になります。

①パソコンの電源を入れて、Mac OS を起動します。

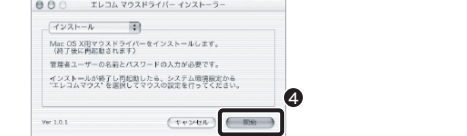
②当社のホームページからドライバファイルをダウンロードし、ダウンロードしたファイルをダブルクリックしてディスクイメージをマウントします。マウントされたディスクイメージを開きます。



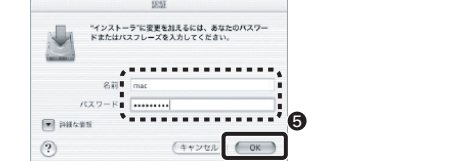
③Installer for Xアイコンをダブルクリックします。



④開始 ボタンをクリックします。



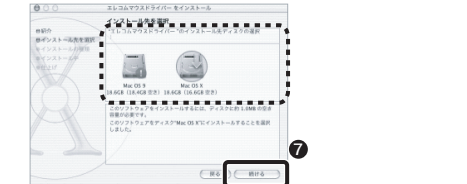
⑤認証画面が表示されます。名前とパスワードを入力し、OKボタンをクリックします。



- ・名前とパスワード「システム環境設定」にある「マイアカウント」で設定されている内容です。

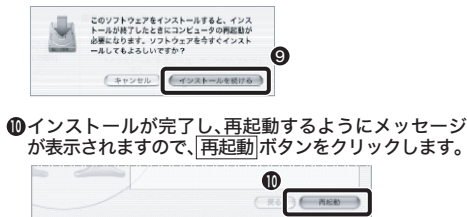
⑥「ようこそ エレコムマウスドライバ インストールへ」と表示されますので、続ける ボタンをクリックします。

⑦インストール先が複数ある場合は、インストール先の選択画面が表示されます。インストール先のディスクを選択し、続ける ボタンをクリックします。



⑧「簡易インストール」と表示されますので、インストール ボタンをクリックします。

⑨インストール後に再起動することを確認するメッセージが表示されますので、インストールを続ける ボタンをクリックします。



⑩インストールが完了し、再起動するようにメッセージが表示されますので、再起動 ボタンをクリックします。

①再起動が完了したら、メニューバー左側にあるアップルメニューから「システム環境設定…」を選択します。



⑫システム環境設定が起動するので「エレコムマウス」アイコンをクリックします。



⑬以下のように表示が切り替わるので、アイコンをクリックして設定アプリケーションを起動します。



⑭設定アプリケーションの「Elecom Mouse for X」が起動するとマウスの全機能が有効になります。各機能はお好みに応じて変更することができます。



注意 接続しているマウスによって表示される画像は異なります。

⑮これでレシーバユニットのセットアップは完了です。次の「乾電池を入れる/交換する」へ進みます。

Mac OS 8.6 ~ 9.xの場合

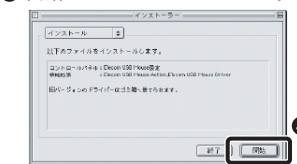
①パソコンの電源を入れて、Mac OSを起動します。

②当社のホームページからドライバファイルをダウンロードし、ダウンロードしたファイルをダブルクリックして解凍します。解凍されたフォルダを開きます。
・ダウンロード先は <http://www.elecom.co.jp/support/download> です。

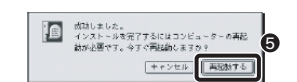
③「インストーラ」アイコンをダブルクリックします。



④ 開始 ボタンをクリックします。



⑤インストールが完了し、再起動するようにメッセージが表示されますので、「再起動する」ボタンをクリックします。



⑥ これでレシーバユニットのセットアップは完了です。次の「乾電池を入れる/交換する」へ進みます。

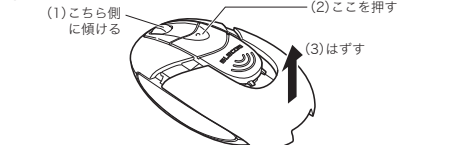
乾電池を入れる/交換する

マウス本体に単3形アルカリ乾電池または単3形マンガン乾電池、単3形オキシライド乾電池、単3形ニッケル水素電池を2本入れます。本製品に付属のアルカリ乾電池は動作確認用です。製品の流通過程で乾電池が自然放電し消耗していることがありますので、動作が不安定な場合は新しい乾電池に交換してください。

Tips 乾電池について

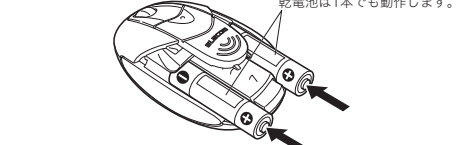
- 使用できる乾電池について
本製品で使用できる乾電池は、単3形アルカリ乾電池または単3形マンガン乾電池、単3形オキシライド乾電池、単3形ニッケル水素電池です。その他の乾電池は使用しないでください。
- 電力性能（新しい単3形アルカリ乾電池を使用した場合）
連続動作時間：約140時間 連続待機時間：約410日（9840時間）
想定使用可能時間：約66日（1日8時間のパソコン操作中25%をマウス操作に割り当てた場合）
※マウスを使用しないときは電源を切っておくと、電池を節約できます。このページの「レシーバユニットを収納する」および「電源を切る」をお読みください。
- 電池交換の時期
乾電池の残量が少なくなると、マウス底面にあるオプティカルセンサのLEDが点灯しくなります。早めに乾電池を交換するようにしてください。

①電池カバーをはずします。



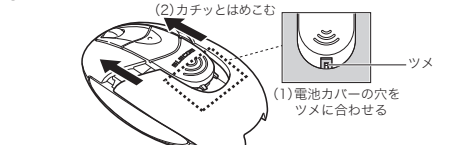
- ・マウスを前方（ホイール側）に傾けて持ち(1)、アクションボタンのホイール側を押します(2)。
- ・電池カバーのロックがはずれたら、持ち上げてはずします(3)。
- ・マウスに電池が入っている場合、マウスを後方（レシーバユニット収納口側）に傾けていると、電池カバーが開いたときに電池と電池カバーを落とすことがあります。ご注意ください。

②乾電池を入れます。



- ・交換する場合は先に古い電池を取り出してから新しい電池を入れます。
- ・プラス(+)とマイナス(-)の向きを正しく入れてください。
- ・種類の違う電池や新しい電池と古い電池を混ぜて使わないでください。電池が漏れ液を起こし、故障の原因となります。

③電池カバーを閉めます。



- ・電池カバーの穴を、マウス本体のツメに合わせます(1)。電池カバーをマウスの前方にむかってカチッとほめ込みます(2)。
- ・マウス本体にレシーバユニットが入っていないければ、電池カバーを開けるとマウスに電源が入り、底面のオプティカルセンサが赤く点灯します。レシーバユニットが入っているときは、レシーバユニットを取り出したときに電源が入ります。

④ 次の「マウスを使う」へ進みます。

マウスを使う

■レシーバユニットの位置を調整する

- レシーバユニットは、できるだけマウスに近い範囲に設置してください。うまく動作しないときは、マウスの動作が安定するところまでレシーバユニットを近づけてください。
- レシーバユニットとマウス本体の間には、ディスプレイモニタなど電波に干渉する機器を置かないでください。無線LANや携帯電話の電波が影響することもありますので、レシーバユニットは無線LANアダプタや携帯電話から離してください。詳しくはこのページの「本製品の設置に関する注意事項」をご覧ください。

■本製品の動作範囲

マウス本体はレシーバユニットから半径約30.0m以内の範囲でお使いください。使用環境によっては約30.0mの範囲内でもマウスが正常に動作しない場合があります。その場合は、動作が安定するところまでマウスをレシーバユニットに近づけてください。

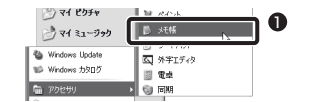
※本製品の動作範囲は、スチール製の机などの金属面では約10.0mになります。

■ホイールの動作を確認する

Windows® の場合

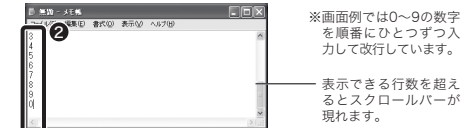
ドライバが正常にインストールされると、カーソルの移動や左右ボタンが使用できるようになります。ここでは、Windows®の標準機能である「メモ帳」を使ってマウスのホイールが正常に動作しているかを確かめます。

①[スタート]ボタン→[(すべてのプログラム)→[アクセサリ]]を選択し、[メモ帳]をクリックします。



・Windows® XPのみ「すべてのプログラム」と表示されています。

②メモ帳の画面の高さを10行程度表示できる大きさにします。文字の入力と改行をくり返します。



- ・適当な文字を入力します。
- ・入力する文字の行数は、10行程度表示できるようにしている場合で20行程度入力します。

③マウスのホイールを前後に回します。



- ・ホイールの動きに合わせて画面がスクロールすれば問題ありません。

注意 すべてのアプリケーションがホイール機能に対応しているわけではありません。一部のアプリケーションでは、ホイールを回しても動作しない場合があります。

Macintosh の場合

ドライバが正常にインストールされると、ホイール機能や右ボタンが使用できるようになります。ここではこれらが正常に動作しているかを確かめます。

①デスクトップ上でマウスの右ボタンをクリックします。

②マウスのホイールを前後に回します。

- ・ホイールの動きに合わせて選択中の項目が上下に移動すれば問題ありません。



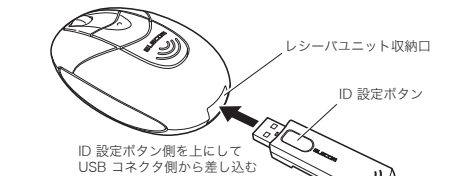
■電源を切る

マウスの電源を一時的に切ることによって電池の消耗を抑えることができます。電源は次の3つの方法で切ることができます。

- 簡単OFF：右ボタン、左ボタン、ホイールの3つを同時に押すと(約10秒間)、電源が切れます。
- 完全OFF：マウス本体底面の主電源スイッチを切(OFF)にすると電源が切れます。
- 自動OFF：レシーバユニットがパソコンに未接続の場合は、マウスの電源が自動で切れます。また、パソコンの電源を切った後、しばらくするとマウスの電源が自動で切れます。

■レシーバユニットを収納する

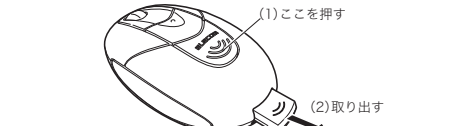
マウスを使用しないときはレシーバユニットをマウス本体に収納することができます。収納するには、下図のように、レシーバユニットをマウス本体のレシーバユニット収納口からゆくりと差し込み、カチッと音がするまで押し込みます。



注意 レシーバユニットはID設定ボタン側を上にして、USBコネクタ側からゆくりと差し込んでください。間違った向きで無理に押し込むと、故障やけがの原因になります。

■レシーバユニットを取り出す

マウスを使用するときは、マウスからレシーバユニットを取り出してパソコンに取り付けてください。レシーバユニットを取り出すには、アクションボタンの「M」ボタンを押します。レシーバユニットが少し出てきますので、指でつまんで取り出します。取り出したレシーバユニットは、①ページ「レシーバユニットの取り付け/取り外し」の手順2を参考に、パソコンに取り付けてください。その後、左右どちらかのボタンをクリックすると底面のオプティカルセンサのランプが赤く点灯します。



ID を変更する

本製品は無線を使用しているため、同じIDの製品が狭い範囲に複数ある場合、混信を起こすことがあります。混信が起こる場合は以下の手順でID設定を変更してください。また、マウスが動作しないときは、レシーバユニットとマウスが異なるIDに変更されている可能性がありますので、同じIDになるように設定してください。

注意 ID設定を変更して混信を回避しても、近接した周波数を使用しているために、動作性能が多少低下することがあります。

①レシーバユニットをパソコン本体などのUSBポートに取り付けた状態でWindows® またはMacintosh を起動しておきます。

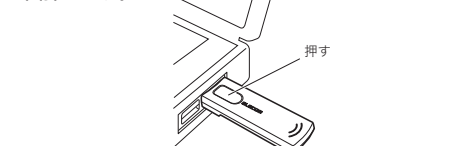
②確実に電波を受信できるようにマウス本体をレシーバユニットに近づけます。



③マウス本体の底面にある「ID設定ボタン」を1回押しします。



④10秒以内にレシーバユニットの「ID設定ボタン」を1回押します。



⑤マウスを動かして、カーソルが正しく動くか確認します。

- ・カーソルが動かない場合は手順②に戻り、もう一度、IDを変更してください。

トラブルシューティング

正常に動作しないとき

マウスを動かしても画面上のマウスポインタが動かないときや動作が不安定なときは、以下の点をご確認ください。

→スチール製の机などの金属面では電波の到達距離が短くなる場合があります。この場合、マウスの動作が安定するところまでレシーバユニットをマウスに近づけてください。

→レシーバユニットがパソコン本体などのUSBポートに正しく接続されていない可能性があります。いったんコネクタをはずして、接続しなおしてください。

→レシーバユニットとマウス本体の距離が離れすぎているか、レシーバユニットが電波を受信できない方向を向いている可能性があります。レシーバユニットの位置を調整するなどしてください。

→レシーバユニットとマウス本体のID設定が異なっている可能性があります。このページの「IDを変更する」をお読みになりIDの設定をやり直してください。すでにID設定をしている場合は、正しく設定できていない可能性があります。マウス側のID設定ボタンは、オプティカルセンサが点灯するまでしっかりと押してください。レシーバユニット側のID設定ボタンは、マウス側のID設定ボタンを押してから10秒以内に、カチッという感触があるまでしっかりと押してください。また、スチール製のデスクなどの金属面でIDを設定すると正しく設定できないことがありますので、マウスパッドなどを敷いてから設定をやり直してください。

→レシーバユニットとマウスの間にディスプレイモニタを配置すると、電波が干渉する場合があります。この場合、配置を見直してください。その他にも、無線LANアダプタや携帯電話なども電波が干渉する原因になります。

→本製品を複数で使用したり、他のワイヤレス機器と同時に使用すると、電波が干渉する可能性があります。このページの「IDを変更する」をお読みになり本製品のID設定を変更するか、他のワイヤレス機器のIDを変更してください。

→電池の残量が少なくなっている可能性があります。このページの「乾電池を入れる/交換する」をお読みになり、新しい電池と交換してください。

→ドライバが正しくインストールされず、本製品がWindows®に「不明なデバイス」として登録されている可能性があります。本製品は通常は「USBヒューマンインターフェイスデバイス」として登録されます。「不明なデバイス」になっている場合は、次の「『不明なデバイス』の削除方法」をお読みになり、いったんドライバを削除してください。次に①ページ「レシーバユニットをセットアップする」をお読みになり、セットアップをやり直してください。

→ノートパソコンのタッチパッドなど、他のドライバと競合している可能性があります。本製品を正常に使用するには、タッチパッドのドライバを削除する必要があります。ただし、ドライバを削除するとタッチパッドが使用できなくなったり、タッチパッド専用の機能が使用できなくなる可能性があります。詳しくはパソコンのメーカーにお問い合わせください。

→マウス底面の主電源スイッチがOFFになっていないか、確認してください。

Tips キーボードでの操作

Windows® 98/2000でのセットアップ時にキーボードで操作しなければならぬ場合は、次のキーを使用します。

- [TAB]：項目やボタンを移動します。
 - [↑][↓]：項目に選択肢がある場合に、選択肢を移動します。
 - [C]キー：キーを押すたびにチェックボックスをオン/オフします。
- ※ [次へ] [OK] [キャンセル] などのボタンを実行したい場合は、[Enter] キーを押します。

「不明なデバイス」の削除方法

本製品のドライバが正しくインストールされず、「不明なデバイス」として登録されているときは、デバイスマネージャを使って「不明なデバイス」を削除してからセットアップをやり直してください。

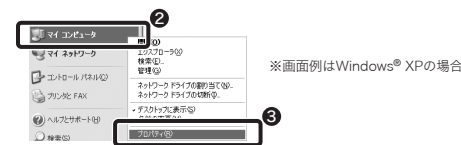
注意 ・「不明なデバイス」が複数ある場合、以下の手順をはじめのうちにどの「不明なデバイス」が本製品の認識情報であるかを確認してください。レシーバユニットをいったんパソコンから取り外して、「不明なデバイス」の表示が消えれば、それが本製品の認識情報です。確認が終わったら再度本製品をパソコンに接続し、以下の手順にしたがって削除してください。
・以下の手順どおりにドライバを削除しても「不明なデバイス」が消えない場合は、パソコンに何らかの問題が発生している可能性がありますので、パソコンメーカーにお問い合わせください。

■Windows® XP/2000でデバイスマネージャを表示する

①Windows® XPでは、[スタート]ボタンをクリックします。

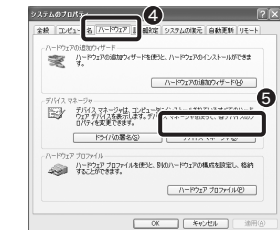
②Windows® XPではリストにある[マイコンピュータ]アイコンを右クリックします。
Windows® 2000ではデスクトップにある[マイコンピュータ]アイコンを右クリックします。

③[プロパティ]をクリックします。



④[ハードウェア]タブを選択します。

⑤[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。

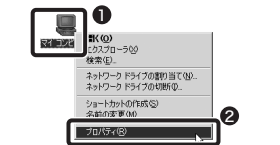


⑥このあとは後の「『不明なデバイス』を削除する」へ進みます。

■Windows® Me/98でデバイスマネージャを表示する

①デスクトップにある[マイコンピュータ]アイコンを右クリックします。

②「プロパティ」をクリックします。

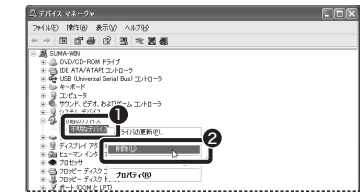


③このあとは次の「『不明なデバイス』を削除する」へ進みます。

■「不明なデバイス」を削除する

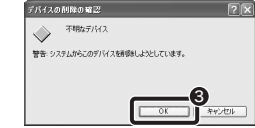
①[デバイスマネージャ]画面にある「不明なデバイス」を右クリックします。

②[削除]をクリックします。



- ・本書の著作権は、エレコム株式会社が所有しています。
- ・本書の内容の一部または全部を無断で複製/転載することを禁止させていただきます。
- ・本書の内容に関しては、万全を期しておりますが、万一ご不審な点がございましたら、販売店までご連絡願います。
- ・本製品の仕様および外観は、製品の改良のため予告なしに変更する場合があります。
- ・本製品の故障、誤動作、天災、不具合、停電等の外部要因によって生じた損害につきましては、当社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- ・本製品の廃棄方法については、地方自治体の条例に従って処理してください。詳しくは各地方自治体にお問い合わせください。
- ・本製品は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠しておりません。本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。また、当社は本製品に関し海外で保守サービスおよび技術サポート等はおこなっておりません。
- ・本製品のうち、戦略物資または役務に該当するものの輸出にあたっては、外為法に基づく輸出または役務取引許可が必要です。
- ・Microsoft®、Windows®は、米国Microsoft社の登録商標です。その他本書に掲載されている商品名/社名などは、一般に商標ならびに登録商標です。
- ・Mac OS、Macintoshは、米国およびその他の国におけるApple Computer Inc.の商標または登録商標です。

③[OK]ボタンをクリックします。



④本製品を接続したまま、Windows®を再起動します。
この後、①ページ「レシーバユニットをセットアップする(Windows® の場合)」をお読みになり、ドライバのインストールをやり直してください。

保証規定

■保証内容
取扱説明書・本体添付ラベルなどの注意書きに従った正常な使用状態で故障した場合に、本保証書の記載内容に基づき無償修理いたします。

■無償保証範囲
製品が故障した場合、お客様は保証書に記載された保証期間内において、弊社に対し無償修理を依頼することができます。ただし下記の場合、弊社は無償修理を承れません。

- (1) 保証書をご提示いただけない場合。
- (2) 保証書に販売店印ならびに購入年月日の記載がない場合。
- (3) 保証書が弊社から発行した保証書でない場合、または偽造・改変などが認められた場合。
- (4) 弊社より発行した保証書と認められない程に破損・汚れが付着している場合。
- (5) 故障した製品をお送り頂けない場合。
- (6) 弊社が動作を保証するとして指定した機器以外でのご使用のために故障または破損した場合。
- (7) お客様の過失により本製品が故障または破損した場合。
- (8) 火災・水害など天災地変および静電気などの異常な電圧などの外的要因により故障または破損した場合。
- (9) 消耗部品の自然な消耗・劣化により故障した場合。
- (10) 輸送中の振動・落下により故障した場合。
- (11) 一般家庭用以外（例えば業務用）での使用による故障または破損した場合。
- (12) その他、弊社の判断に基づき、無償保証が認められない場合。

■修理
修理のご依頼時には製品をお買い上げの販売店にお持ちいただくか、弊社修理センターにご送付ください。

■免責事項
お客様がご購入された製品について、弊社に故意または重大な過失がある場合を除き、損害賠償責任は購入金額を限度といたします。弊社はかかる保証は本製品の機能に関する保証のみに限ります。弊社瑕疵にもとづく本製品以外の責には本製品は関係ありません。また記憶されたデータの消失または破損について保証するものではありません。

■有効範囲
本保証規定は、日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.
この保証書は再発行いたしませんので、大切に保管してください。

ユーザーサポートについて

本製品のマニュアルは保証書を兼用しています。保証内容をお確かめの上大切に保管してください。本製品のご使用中に何らかのトラブルが起きたとき、または操作方法や使いかたがわからないときは、エレコム総合インフォメーションセンターにご連絡ください。

商品に関するお問い合わせ	●エレコム総合インフォメーションセンター TEL. ・0570-084-465 FAX. ・0570-050-012	受付時間 9:00～12:00 13:00～18:00 年中無休

基本仕様

製 品 名	無線マウス
製 品 型 番	M-D10UR
インターフェイス	USB
使用 周 波 数	ISM バンド 2.4GHz帯 (2402 ～ 2479GHz)
変 調 方 式	直接シフトキー管絃散方式 (DS-SS方式)
チャ ン ネ ル 数	78 チャンネル
アン テ ナ 型 式	単一型 (内蔵)
対 応 機 種	IBM PC/AT 互換機およびNEC PC98-NXシリーズでUSBポートを標準で装備した機種 USBインターフェイスを装備したMac OS8.6～9.x、Mac OS X(10.2以降)が動作する機種
対 応 O S	Windows® XP/Me/2000/98 Macintosh OS 8.6～9.x/OS X(10.2以降)
電 源	電圧：DC0.9～1.9V 対応電池：下記のいずれかの電池を2本(1本でも動作可能) 単3形アルカリ1次乾電池単3形マンガン1次乾電池 単3形オキシライド乾電池単3形ニッケル水素二次電池
電 波 達 達 距離	非磁性体(本製品など)：見通し半径約30.0m 磁性体(スチール製机など)：見通し半径約10.0m ※当社環境でのテスト値
電 力 性 能	アルカリ乾電池使用時の目安 連続動作時間：約140時間、連続待機時間：約410日(9840時間) 想定使用可能時間：約66日 (1日8時間のパソコン操作中25%をマウス操作に割り当てた場合)
動作温度 / 湿度	-15 ～ 40℃/0 ～ 90% (RH)
保存温度 / 湿度	-40 ～ 65℃/0 ～ 95% (RH)
分 解 能	800 カウント/インチ
形 状 寸 法 / 重 量	マウス本体：W58.6×D102.0×H38.0mm/63g レシーバユニット：W17.8×D66.5×H10.4mm/8g
梱 包 内 容	マウス本体、レシーバユニット、 単3形アルカリ乾電池、マニュアル、専用ポーチ

モバイルワイヤレスマウス M-D10UR シリーズ
ユーザーズマニュアル 2005年10月20日 第1版
エレコム株式会社
©2005 ELECOM Co., LTD. All rights reserved.